

生き物を大切にします



子どもが身近で動物を見たり、実際に触れたりする機会が少ない昨今、園児に動物とのふれあいの機会を作り親んでもらおうと、富岡保育園で移動動物園が開かれました。園庭に設置した動物広場に放された

ポニー、ヤギ、ブタ、ウサギ、ヒヨコ、陸ガメなどを園児たちは次々と触ってかわいがりました。初めて大きな動物に触って「すごく温かい」と話す子や追いかけ回したりする子などさまざまな姿が見られました。

あんな事、こんな事



万が一のとき 勇気ある一歩を

9月9日の「救急の日」を前に、命をつなげる会中濃(平川英樹会長)の主催で心肺蘇生法普及大会が開かれ、多くの市民が参加して技術の習得に努めました。街頭での緊急事態の状況を想定して、救急車の手配、気道確保、心臓マッサージ、人工呼吸、AED(自動体外式除細動器)の使い方などについて、人形を使って熱心に取り組んでいました。いざというとき役立つよう、続けて受講してもらいたいと呼びかけました。

ミナモに会いたい

ぎふ清流国体の大会啓発と、大会を盛り上げるためのダンスの出前教室が武芸小学校で開かれました。大会キャラクターのミナモ率いる「ミナモダンスーズ」が保育園や小学校などに出張し、ダンスを教える企画で、児童らはステージにあがったダンスの動きをまねしながら、元気一杯に踊りました。練習後、いよいよミナモが登場すると、児童らは大興奮。ステージのミナモと一緒に楽しくダンスをしました。





南国フルーツ豊作願う

9月上旬、中之保多々羅地内にある広さ約2ヘクタールの「関むぎパッションフルーツ農園」で収穫が最盛期を迎えました。パッションフルーツはブラジル原産の果物で、国内の温暖な地域で栽培されています。実の中の黄色いゼリー状の果肉と果汁が甘いそうです。ゼリーやジェラートなどの加工品も道の駅平成で販売されています。収穫は予定より少なめとのことですが、甘くておいしい南国のフルーツをぜひご賞味ください。

約束の4連覇

第45回全国高校定時制通信制陸上大会で、関商工高校4年の水流勇樹さん(岐阜市大洞)が800m走で大会3連覇、1,500m走では大会4連覇を成し遂げました。前年の3連覇の際に尾藤市長を訪問し、市長へ「4連覇」を誓ったことに触れ、約束を果たしたことをお互いに喜び合いました。市長は「努力のたまもの。こちらが勇気をもらった」と労をねぎらいました。



クラシックで子育ての手助け

シルバー人材センター子育て支援班の主催で、乳幼児を対象にしたコンサートが中部学院大学で開かれました。ピアノとマリimbaによるメドレーを披露。会場から手拍子が起こり、小さな子どもたちは歩き回ったり、リズムよく体を揺らしたりして楽しんでいました。保護者は「本物の楽器を使った生演奏を聞かせることは、とても素敵で教育的にもいい」と笑顔で話していました。

クッキングパパ 現る

男性保護者と小学生を対象とした料理教室が3回にわたって開かれ、参加親子が料理を通してコミュニケーションを図りました。調理中、おいしい作り方のコツを講師に積極的に質問する父親の姿もあり、出来上がった料理は、子どもたちが全部残さずたいらげました。この教室をきっかけに、家事や育児に関心を持ってもらい、仕事以外の家庭生活にも主体的に参画する父親が増えることを願います。



こぼれ話



9月6日、東京で本年度の重要無形文化財保持者(人間国宝)への認定書交付式があり、近藤誠一文化庁長官から関市初の人間国宝である染織作家の土屋順紀さんへ認定書が手渡されました。

私は取材で何度か土屋さんのお宅へ行きましたが、広報紙や広報番組で紹介しきれなかった話もいくつかあります。例えば植物染料の話。セイタカアワダチソウからは黄色が出るそうです。また、1つの植物からは出ないといわれている緑色も、クズからは緑っぽい色が

出るとのこと。ただ、緑色と言うにはちょっと違うみたいです。

取材の中で最も印象に残った土屋さんの言葉が「作品が完成すると、満足感ではなく達成感がわいてくる」でした。それは満足するとそこで終わってしまい、次へ進めなくなるからだそうです。この言葉を聞いて思わずうなずいていましたが、この気持ちは皆さんも感じているのではないかと思います。やりきったという一つの区切りをつけて、すっきりさせて次へ進む。この気持ちを忘れずにいたいものです。